

名取高校定時制学校だより2016



宮城県名取高等学校
定時制 学校だより

宮城県名取高等学校
989-2474

宮城県岩沼市字朝日50

TEL 0223(22)3151

FAX 0223(22)3152

E-Mail chief@natori-2h.myswan.ne.jp

URL

<http://www.natori-2h.myswan.ne.jp/>

平成28年7月21日発行 第3号



生徒交流会の様子

ハイライト:

- 定通大会
- 育成会進路講話
- 7~9月の日程

バドミントン女子個人, 陸上競技3種目全国大会へ!

6月11日に仙南地区定通体育大会, そして6月18日に県定通体育大会が行われました。本校からはバドミントン男女, バスケットボール男子, 卓球男子, 陸上競技男子が出場し, 大健闘しました。

<県定通体育大会結果>

バドミントン

女子団体 2位

女子個人

2年及川 舞 2位

陸上競技

チーム総合 2位

4×100R 3位

男子走り高跳び

3年 菊地宥杜 1位

男子走り高跳び

3年 高橋 凱 1位

男子200m

3年 高橋 凱 1位

この結果, バドミントン女子個人で2年及川舞さん, 陸上競技男子走り高跳びで3年菊地宥杜君, 男子走り高跳びと男子200mで3年高橋凱君の合わせて3名が全国大会の舞台に駒を進めることになりました。おめでとうございます!

<仙南地区大会結果>

バドミントン

男子団体 2位

女子団体 1位

男子個人

3年阿部偉月 2位

女子個人

2年及川 舞 2位

2年関東佑香 3位

バスケットボール

男子 2位

卓球

男子個人

4年渡邊康太 3位



須藤功氏熱く語る ～定時制進路講話～

「自分はどう評価されているか」

私は農家の小せがれです。お金があるわけでもなく、勉強もスポーツもできたわけではありません。人のタイプは「前だけしか見ない人」と「後ろを振り向いて、自分の足跡を見る人」の二種類がいると思います。私はその後者。後ろだけを見て、30歳ごろまでは人にどのように思われているか、私のやったことを人はどう判断するのか、それをすごく考えていました。

中学校の頃まで私は全く目立たず、「須藤、いたっけか。」と言われるような存在。私が「市議会議員に立候補するんだ。」と同級生に言って回ると「え、おまえが立候補するの。」と言われるほど全く目立ちませんでした。

高校で陸上部に入り長距離をやりました。昔名取高校にあったマラソン大会では、自慢話じゃないけれど三年連続1位でした。陸上の県大会でも優勝しました。走ってばかりいた私に東北学院大学から特待生の誘いがあり入学しました。親父は貧乏だったので入学資金のために田んぼを売りました。兄弟で私だけ大学に。だから一生懸命、走ることも家の手伝いもやる。走ることが楽しく、良い成績を残すと親は喜んでくれました。しかし、そのころは第二次オイルショックの後で就職先が無いのです。そんな時「須藤、俺の知っている会社に入らないか。」と言う先輩がいました。その会社は電気や機械を扱う会社で、経済学部の私は専門外でしたが、「須藤は一生懸命大学で走ったので入れてやってください。」と先輩は会社に頼んでくれました。

会社に入ってびっくりしました。私の仕事は大きな会社相手の営業。いくら仕事を



熱く語る須藤功名取高同窓会長

取ってきても「須藤がやった仕事じゃない」と言われ、取引先の所長には怒られる。「態度が悪い。」「顔が悪い。」最後に「名前が悪い。」とめちゃくちゃでした。世の中景気が悪いと何でもそうですが、受ける仕事の金額がどんどん下がってきます。それでまた怒られる。社内でも持ってきた仕事を「お前やれ。」と引き受けてもらえません。「資格も何もないからできない。」と言っても聞いてもらえないという状況がずっと続いていました。大学時代には、県で

名前が通っていたのに、会社に入ってからぼろくそ。すぐにでも辞めてやろうと思っていました。入社2年目、名取高校の同級生から「須藤、一緒に走ろう。みんなで集まって夜走らないか。ちゃんと来いよ。」と誘われました。日に10キロとか20キロと走り、だんだん距離が20キロ30キロと伸びていきました。走るのが楽しかったのです。会社で起こったいろいろなつらい出来事。しかし、走っているとそれらをけろっと忘れて「おはようございます！」とにこっと笑うことが出来ました。

25歳の時に東日本縦断駅伝の県の代表に選ばれました。これに選ばれたら不思議なもので、周りの人の態度ががらりと変わりました。昨日まで「お前の仕事なんていない。」と言っていた人が「ああ置いておいて。」「あと走ってこいよ。」と。今まで相手をしてくれない人からも「あ、須藤さん。」と今度はさん付けです。これもすべては名取高校で一生懸命走ったおかげだと思います。そうこうしているうちに、28歳の時、5000万円の仕事を受けてました。会社の見る目もがらりと変わります。「須藤君すごいんだ。」と言われるようになりました。仕事もついてきます。33歳の時には営業成績で1番になりました。バブルが崩壊して世の中の仕事が無い

ときでした。会社の他の連中は高額の仕事をもたらおうとしていましたが、私はそのころ誰も見向きもしないたった200万の小さい仕事に一生懸命種まきをしていました。上司から「須藤、お前なんでそんな小さい仕事を追いかけているんだ。」と言われました。勤務時間が過ぎてから取引先で話を聞き、物やお金ではなく、知識を提供して話をしていました。そうすると必ず家に帰るのは21時、22時。みんなに言われます。「なんでそんな仕事をやるの。」と。バブル崩壊後、種をまいた200万の仕事は付加価値がついて500万円に。500万円の仕事が10カ所出れば、5000万。15カ所出れば7500万。数字を残すためにやるのではなくて、自分が何をすればいいのかを、自分なりに判断して、周りがどう見ようが、周りからどう思われようが、自分はこれをやるんだと思うことを繰り返し、新しい仕事をかなり得ました。だれもやらないような仕事、だれも見つけられないような仕事を将来できるかもしれない、やれるかもしれない。だから皆さん、今何をするかです。今できることをしっかりとやる。何をすればいいかは皆さんが決めることです。

42、3歳のころ、地元の陸上競技会の人に誘われ、陸上競技の指導者に。それがきっかけでスポーツ少年団を作りました。会社のことよりも少年団が楽しくて熱心に指導していました。44、5歳のころ娘が中学生の時、娘の通う中学校のPTA役員をしている私の同級生から「ちょっとでいいからPTAを手伝ってくれないか。」と誘われました。それまでPTA役員をしたことはありませんでした。「少しならいいよ。」と返事をしたものの、実際に就いたのはPTA会長でした。畏のように会長に。娘の卒業と同時に1年でやめようとすると、今度は僕

の息子が次の年度で中学校に入学するので「もう1年」と校長先生に頼られました。その校長先生の奥さんは、私が中学校の時の数学の先生だったという縁もあり承諾しました。息子の卒業まで4年間のPTA会長で、岩沼のいろいろなことが見えてきました。「もう少し子供たちのために何かを出来ないか。」という思いが強くなり、岩沼市議会議員に突如立候補することに。告示の二ヶ月前に、立候補することを妻に告げると「落ちたら恥ずかしいでしょ。」などとたくさん文句を言われました。何とか当選できましたが、すべては陸上競技というスポーツをやっていたからだと思います。何も知らない人がいきなりPTAの会長になれるわけではない。仕事で陸上競技をやっているよという情報が校長先生の耳に留まり、PTAの会長に。世の中は何が良くて何が悪いということではなく、自分が正しいと思ったことにどんどん切り込んでいく。市議会議員になったからそれがすべて良いと言うことではなくて、そこに行くまでに自分が何をやるべきかを考えてみる。それが皆さんに一番知って欲しいことです。やればできます、なぜなら私みたいな人間でもここまで来られたからです。普通に生きていても自立できない。顔、頭、元気がいいというわけでもなく、自分の足跡は本当にこれでいいのか、みんなが自分のことをどう思っているのか、そればかり気にしていました。そういう人が、歩んできた道が間違いではない、それをみんなに分かって欲しいです。自分のような人間でも出来るのだからみんなもできるはず。結果が出なくとも、一生懸命努力したことは財産になる。人からどう言われようが前に進んでいく。みんなはまだまだ若いので、今のうちに走ってください。逃げたくなくても少しくらい頑張ってください。僕も会



左から、土生善弘全日教頭、一條博之前校長、河本和文校長、咲間亘定時制育成会会長

真・善・美への感動と実践

社に入ったときに「こんな会社2ヶ月で辞めてやる。」と思っていました。それが28年間続きました。訳あってその会社は辞めました。が今でも当時の同僚とはいろんな情報交換をしています。

名取高校で陸上を始め、自分の好きなことを思いきりやることができたことが今の自分になっていると思います。これはすごく大切な事なので、自分が大きく思い描いたことは、少ししか出来なくても、全然出来なくてもいいから、思い描いたことをしなくてはいけない。好きなことをどんどんやろうと思ってみてください。

ずっと何かをやっているという思いが、何かを変えることが出来る。自分でだめだと思ふ瞬間はあります。しかし、もう少し何かやってみようと思っっている人々と話をしてみるうちに解決の糸口は見つ

かってきます。周りからどう思われているかを気にするのではなく、自分がどう目標達成に向けて行動できるか。これから会社に入って何をするのか、そのための準備を今から少しずつして欲しいと思います。高校生でやれることは高校生でやろうということです。自分の好きなことは自分で歩いていこうとすること。自分が就いた仕事が自分のやりたいものでなかったとしたら、今度はそれを一生懸命にやる。そこで仕事が出来ないなら、よそに行っても仕事は出来ません。「辞めないでくれ。」と言われるような人間になってください。たとえば10キロ走れなくてもずっとマラソンを続け、年を取って東京マラソンに出た、という話題だけでも仕事の話は来ます。自分のやりたいことをどんどん進めて欲しいと思っています。



7月～9月の主な行事予定

7月

- 21日(木) 1学期終業式
- 21～29日 三者面談期間
- 22日(金) 夏季休業(～8月25日)

8月

- 17日～25日 4年就職面談期間
- 26日(金) 2学期始業式
- 30日(火) 4年就職模擬面接会

9月

- 1日(木) 校内生活体験発表
- 3日(土) 名高祭
生徒の集い
- 16日(金) 就職採用試験開始
- 24日(土) 県生活体験発表
- 29日(木) 球技大会